

馬 城 会 報 よ り (2)

ここ3年間、コロナ禍の下で、集会は自粛となり、やむなく各支部の活動は、制限が加えられた。唯一、原町支部は、2021年2022年と総会を実施しました。

会報には、仙台、原町、茨城3支部からの報告があったので転載しました。

今年度は、コロナに関する規制が解かれつつあるので、各支部、本部とも通常の活動が再開されることが期待されます。

第 52 号 馬 城 会 報 令和5年2月28日(4)

各支部の動き

原町支部

原町支部は令和四年度も新型コロナウイルス対策に万全を期して「総会のみ」懇親会自粛で開催しました。総会開催の直前に大変な朗報が飛び込んで来ました。

当支部創設が大正十一年(一九二二年)今年が百周年であること。歴史的な年になり、諸先輩諸氏のご労苦に感謝の念でいっぱいです。

総会は、令和四年五月十四日(出南相馬市原町区の石神生涯学習センター)で会員総勢二十名弱が集い開催

仙台支部

当支部(佐藤昌利支部長)は、令和四年十月に支部総会を開催すべく鋭意検討して参りましたが、折悪しく宮城県・仙台市に於いて新型コロナウイルスの第七波を迎えたことから、残念ながら支部総会の開催を見送ることとなりました。

なお、当支部会員の弁護士荒中氏(昭和48年卒)が日本弁護士連合会長として、二年間の重責を全うされましたので、その慰労会を六月二十五日(由)に支部会員有志により開催いたしました。当日は、村山正之本部

しました。総会の前には一堂が会した恒例の「記念写真」を一瞬のマスク無しで撮りました。議案は原案通り承認されました。今年度より特別会計を組み地域貢献活動や現役後輩たちを支援して行くことも承認されました。

総会後のアトラクションでは、会員の林博太郎さんのハーモニカ演奏で懐メロ演奏があり心穏やかなときになりました。

本部より村山正之会長、瓜生康弘校長、今野直樹事務局長が来賓として出席がありました。村山会長より「相中相高百年史」から当支部の百年の歴史等について

会長、西一信鹿島支部長の御来賓に相馬から同級生の柴田勝也氏ほか二名が加わり大変和やかな会となりました。

また、東北大学法科大学院入学のため京浜支部から当支部に移籍した小泉結佳氏(平成28年卒)が司法試験に合格し、司法研修所に入所するため仙台を離れるに当たり、祝賀会を弁護士の先輩でもある佐藤支部長以下四人の有志でささやかに開きました(写真の通り)。将来は弁護士希望とのことで相馬高校出身の女性の希望の星となることを確信いたしました。

新型コロナウイルスの感染の終息が見通せない中、

茨城支部

令和五年正月・茨城支部の状況

令和二年四月十六日に茨城を含む全国にコロナの緊急事態宣言が出され、それを契機にマスク着用の徹底、不要な外出の抑制、集会の抑制などが現在まで続いており、多くの支部同様、茨城支部総会はこの三年間は休会となりました。この

当支部も大変苦慮しておりますが、令和五年度の支部総会の開催に向け引き続き努力して参りたいと考えております。

三年の空白の間に役員の高齢化が一段と進み、その対策を含めた後継の問題を相談するため、コロナ騒ぎが下火となった時期を狙ってぜひとも役員会を開催したいと支部長とも電話で話したところ、どの支部でも同じ問題があると思えます。日本の少子化問題の影響で茨城在住の同窓者の数は減少傾向にあり、五十代以下の若い同窓生に年一回の支部会開催の知らせを呼びかけても、不参加の返事が来る状況です。この状況を変えるためにも、役員若返りをぜひとも図りたいと考えています。茨城在住の同窓生の多くは、日立市から南の常磐線とそれに枝分かれしている鉄道周辺に任んでいます。水戸より南は東京通勤圏ともなっており、水戸、土浦、取手、筑波などは東京でのコロナ感染が増えることこれらの地区でも増えてきます。このような状況なので、将来は京浜馬城会への合流も検討すべきかと、ふと考えてしまいます。兎にも角にも今のコロナとインフルエンザのダブル流行が下火になったところに、ぜひとも支部役員一同の会合を持ち、皆での無事を確かめ、今後の支部の在り方を話し合いたいと思っております。

(村山記)